

第48回番組審議会の審議結果について

1. 開催年月日 令和2年8月20日（木）10時～
2. 開催場所 (株) ケーブルメディア四国 会議室
3. 出席委員 (7名 出席)

灘波	順一	委員長
加藤	昭彦	副委員長
北川	つき子	委員
長谷	有美	委員
合田	恵梨子	委員
古竹	孝一	委員
国東	宣之	委員

4. 会社側出席者
藤綱 郁夫 (取締役社長)
伊勢 達哉 (放送部長)
天雲 光紀 (放送部編成制作課長)
森 朋子 (放送部編成制作課)
大西 愛 (放送部広告営業課)

5. 審議結果

議案の自主制作番組①「四国懐菓子の旅」、自主制作番組②「御厩焼 ～消えかけた地域の生活雑器～」について担当者より番組制作の意図などを説明した後、それぞれの番組を審議して頂いた。各委員からの主な意見は次のとおり。

<主な意見>

①「四国懐菓子の旅」

- ・金屏風や着物が華やかで、お正月らしく明るい番組となっていた。
- ・正月に視聴するのによいほっこりとした番組で、タイトルもよかった。
- ・インパクトのある衣装で、誰が選んだのか気になった。
- ・四国の伝統的なお菓子を紹介する視点が良い。
- ・お菓子が作られた由来や作り方が説明されていて、いろいろな文化があることがわかった。
- ・伝統あるお菓子が多くあることが知れてよかった。
- ・お菓子の紹介と説明は、県外のお客様に渡す手土産の参考となる。番組制作を続けてほしい。
- ・お店情報など、どこで商品を購入できるのかを明示してほしい。

②「御厩焼 ～消えかけた地域の生活雑器～」

- ・御厩焼きを知らなかったので勉強になった。
- ・地域の文化・芸術を紹介することは大事である。
- ・親子と一緒にモノづくりをしている姿がよかった。
- ・御厩焼運営委員会の思いや、地域住民、学校とのつながりがわかり、一生懸命焼き物に取り組んでいる事がわかった。
- ・先生の表情からも地域との良い関係性が伝わり、学校全体で地域伝統を守ろうとしていることがわかった。
- ・映像を通して時間をかけて取材していることが伝わった。
- ・制作者と出演の方々との良い関係が、出演者の人間性を引き出している。
- ・校長先生や坂本会長の笑顔が印象的であった。
- ・地域伝統の理解が深まる内容であった。
- ・各地域に、それぞれ文化・伝統があると思うので紹介してもらいたい。地域の励みになる。

議案 自主制作番組①

番組タイトル	四国懐菓子の旅
放送期間・番組尺	2020年1月1日～15日 29分（CM有）
番組コンセプト	帰省する家族が揃うお正月の放送にあわせて、肩肘張らず楽しめ、家族と地元のことについて談笑しながら見ることができる「ほっこりした番組」を企画しました。 そこで、テーマを「昔からある懐かしい地元の菓子」としました。 創業当時から守り続けている菓子職人のお菓子への「こだわりと愛情」、丁寧な手仕事を伝えることで、視聴者が地元の魅力について再発見するきっかけとなり、その新たな発見で地元の文化、モノづくりへの興味・関心に繋がればという思いで制作しました。
番組内容	何かの拍子にふと思い出して、無性に食べたくなる昔懐かしい郷土菓子。 その名前の由来、カタチはどれも興味深いものばかりです。 番組では、四国の歴史ある菓子店をお遍路の88カ所にかけて88店舗を選定し、さらに「くじ」で選んだ8店の菓子店を取材。 美味しさだけじゃない、菓子職人のこだわりや誕生秘話など、実は知ると面白い、四国の懐かしいお菓子を紹介します。
出演者	菓子職人8名 ナビゲーター 森朋子（CMS）
プロモーション	チャンネルガイド、チラシなどで番宣
今後の動き	ご紹介するお菓子が88個あるので、続編を検討しています。

議案 自主制作番組②

番組タイトル	御厩焼 ～消えかけた地域の生活雑器～
放送期間・番組尺	2020年4月1日(水)～4月30日(木)・14分35秒
番組コンセプト	地域には、住民の中で脈々と受け継がれていること、他の地域では知られていなくてもその地域になくしてはならない行事がたくさんあります。地域密着のケーブルテレビだからこそできる、地域の大切な出来事を紹介する番組を制作し映像に残すことで、地域住民が自分たちの地区のことを改めて考えたり、住民同士が一つになるきっかけになればと思い、制作しました。
番組内容	高松市御厩町で生まれた生活雑器「御厩焼(みまややく)」江戸時代に誕生し、生活雑器として活用された黒い素焼きの焼き物です。番組では、時代の流れの中で衰退した御厩焼を地域に残すための活動をしているみまや焼き運営委員会 坂本会長を紹介するとともに、地域住民にとって御厩焼はどんな存在なのか、御厩焼の今後の在り方を探ります。
出演者	みまや焼き運営委員会 会長 坂本信孝さん 高松市立檀紙小学校 6年2組の児童(令和元年度当時)
プロモーション	チャンネルガイド(番組表)・ホームページ・フェイスブック・檀紙コミュニティセンターにチラシ配布
今後の動き	年間を通して取材したことで生まれた関係性を切らさないよう、定期的な取材や連絡を継続していきます。